

地球平和公共ネットワーク・シンポジウム 2005 No.2

東京平和映画祭 for youth 合同イベント

スピリチュアリティと平和

こころと世界をつなぐムーブメント

日 時：2005年11月27日(日)

会 場：全国教育文化会館エデュカス東京

環境、戦争・テロ、貧困など、
社会の不安が高まる中で、スピ
リチュアリティに関心をもつ
若い人が増えています

この流れを平和への希望に結
びつけることはできないでし
ょうか？

さまざまな立場の研究者・実践
者をお招きし、スピリチュアリ
ティの意義を探ることで、新し
い平和の動きを創っていきたく
と思います

プログラム パネルディスカッションと質疑応答が基本となります

- | | | |
|-------|-----|-----------------------------|
| 13:00 | 開場 | 祈りの音楽 |
| 13:30 | 第1部 | ： 公共的霊性と地球的平和について |
| 15:30 | 休憩 | |
| 15:50 | 第2部 | ： 祈り / スピリチュアルな平和の実践について |
| 17:55 | 休憩 | |
| 18:15 | 第3部 | ： ショートスピーチ / 来場者との対話 / 瞑想・歌 |
| 20:00 | 終了 | |

主催：地球平和公共ネットワーク

協力：東京ピースフィルム倶楽部 / 千葉大学21世紀COEプログラム公共研究センター

広報協力：サトルエネルギー学会 / (有)ベストフォルム / スタジオ・ヨギー / 地球新聞 / RAINBOW ZERO / NPO レインボー / 地域通貨
Rainbow Ring / エイズ予防財団レッドリボン推進委員会 / 横浜アートプロジェクト / NPO 日本技術振興会 / (株)ヌールエ / 虹の旅団 / 古川よ
りひろ行政書士事務所 / アースデイ環境出版大賞委員会 / ソーシャルベンチャー協会 / 山元学校 / 人類生き残り研究会 / NPO ハートフルラン
ド / (株)サンジョルディ出版 / もの作りビッグギャラリー / すびこん / 環境意識コミュニケーション研究所 / ホゼ・アグエイアス招聘委員会 / NPO
睡眠プロデュース協会 / さんが出版 / Renaissance 2001 Project / earthday.jp / 9.11BE-IN / EARTH VISION 地球環境映像祭 / グル
ープ現代 / 市民国連創出フォーラム実行委員会 / NPO未来構想戦略フォーラム / (株)まちおこし / 世界協会日本支部(WANGO-Japan) / 深瀬
記念 視覚芸術保存基金 / パッション・キャタライジング ほか

地球平和公共ネットワーク(千葉大学公共哲学センター内)

TEL&FAX: 043-290-3028 E-mail: global_public_peace@hotmail.com

URL: <http://global-peace-pjpublic-network.hp.infoseek.co.jp/>

< 祈りの音楽 >

あだっち

ディジュリドゥ担当。NakedLoft(ネイキッドロフト)で行われているヒーリングナイト(いやしの騎士)企画者。

Silent Roots.(サイレント ルーツ)

アメリカンドラム、アメリカンフルート、歌担当。スピリチュアルカウンセラー、ヒーラー。チェロキー族アースサンダーさんのアプレンティスでもあり、ヒーリングの傍ら啓示のまま、全宇宙・地球全生命の調和を願う音楽と踊りによる祈りをしている。

荒井 倫太郎(あらい りんたろう)

アメリカンドラム、アメリカンフルート担当。アパッチの血を引くシャーマン、ウィリアム・トゥーフェザーからドラムヒーリングの伝授を受け、ドラムヒーラーとして活躍。スピリチュアルコンベンションなどで、メディスン・カードを使ったリーディングを行う。アピッチタ代表。

【第1部】 公共的霊性と地球的平和について

スピリチュアリティと聞くと、「怪しい」と思ってしまう人も、靖国問題などを連想する人もいます。そこで、この主題を正面から取り上げることができるように、キリスト教、仏教、新宗教などの研究者に、多様な視点から話していただきます。

< パネリスト >

稲垣 久和(いながき ひさかず)

東京基督教大学、キリスト教哲学。1947年東京生まれ。物理学を学んだのち、アムステルダム自由大学哲学部・神学部で学ぶ。現在の課題は公共哲学、特に宗教が公共の場でどういう意味を持ち、また役割をはたせるかに関心を持っている。グローバルに宗教が活性化してきているが、特に民族や国家と結びついた原理主義的な宗教の台頭の中に日本の首相・閣僚の靖国参拝問題もあるという見方をしている。著書に『宗教と公共哲学』(東京大学出版会)、論文に「文明・宗教間対話とシャローム(平和)公共哲学」などがある。

島蘭 進(しまの すずむ)

東京大学、宗教学。1948年、東京生まれ。東京大学文学部宗教学科卒業。現在、東京大学文学部(大学院人文社会系研究科)宗教学宗教学史学科教授。主な研究領域は比較宗教運動論、近代日本宗教史。著書『現代救済宗教論』青弓社、『救いと徳』(編著)弘文堂、『精神世界のゆくえ』東京堂出版、『現代宗教の可能性』岩波書店、『時代のなかの新宗教』弘文堂、『癒す知の系譜』吉川弘文館など。人助けの学問という気持ちで医学を志したが、その理想に疑問をもち、「宗教」周辺にあって、難しい現実の問題に取り組む人々の営みを描こうとしてきた。現場的・応用的・臨床的な宗教研究を実践してきている。

斉藤 謙次(さいとう けんじ)

新日本宗教団体連合会事務局長、宗教学。1953年生まれ。1976年立教大学卒業。1984年シカゴ大学神学校修士課程修了(専攻:宗教学)。現在、財団法人新日本宗教団体連合会事務局長、日本宗教連盟幹事、国際宗教研究所評議員など。著書に『現代世界と宗教の課題 宗教間対話と公共哲学』(共編著、蒼天社出版2005年)。

吉田 収(よしだ おさむ)

東洋大学・宗教学。東外大学士、東大修士、コロンビア大博士、ワシントン大講師、南イリノイ大講師、ネブラスカ大助教授、東洋短大教授などを経て現在東洋大教授。世界宗教会議、国連平和サミットなどに参加、協働。『目覚めの道』、『地球倫理 - 人類の未来のために』、『地球倫理宣言』、『今こそ地球倫理を』、『世界諸宗教の道』、『NO SELF - A New Systematic Interpretation of Buddhism』、『Little ss Life』など著書、訳書、DVDシリーズなどの業績。ミズーリ禅センター、セントルイス広域区仏教協会、地球倫理協会、地球システム・倫理学会など設立、運営協働。

< コーディネーター >

小林 正弥(こばやし まさや)

1963年東京生まれ。東京大学法学部卒業。現在、千葉大学法経学部教授・公共哲学センター長。9.11直後に公共哲学ネットワークを発足させる。公共性を中核とする国際的な学問的研究を推進すると同時に、地球的平和問題をはじめ実践的問題に対して公共的に様々な見解を提示している。2003年元旦には、研究者と市民が共に平和のための実践活動を行う地球平和公共ネットワークを創設。イラク非戦声明・有事法制反対声明・包括的非戦声明などを公表。神奈川県在住。著書に『非戦の哲学』(ちくま新書)、編著として『地球的平和の公共哲学』(東京大学出版会)『戦争批判の公共哲学』(勁草書房)ほか。

【第2部】 スピリチュアルな平和の実践について

映画祭で「ホビの予言 2004年版」が上映されますので、それに対応して、ネイティブ・アメリカンの観点から星川淳、辰巳玲子両氏に、また、日本の平和運動の鍵となっている沖繩から比嘉良丸氏に、そして近年のスピリチュアリティの代表的紹介者として山川亜希子氏にお話いただきます。はじめに、比嘉良丸氏に巡礼についてのスピーチと祈り・瞑想を行なっていただきます。

<パネリスト>

星川 淳(ほしかわ じゅん)

作家・翻訳家。1952年、東京生まれ。82年より屋久島在住。自然、環境、平和、先住民文化などについて有意義な問いかけを続ける。ライフワークは「心と社会の緑化」。著書に『魂の民主主義』(築地書館)、『非戦という希望』(七つ森書館)、『屋久島水讃歌』(南日本新聞社)、『環太平洋インナーネット紀行』(NTT出版)、共著に坂本龍一監修『非戦』(幻冬舎)、訳書にP・アンダーウッド『一万年の旅路』(翔泳社)、J・ラヴロック『ガイアの時代』(工作舎)、S・リッター『イラク戦争』(合同出版)ほか。TUP監修『世界は変えられる』(七つ森書館)で2004年ICJ市民メディア賞受賞。

辰巳 玲子(たつみ れい)

ランド・アンド・ライフ、映画「ホビの予言」事務局。1957年神戸生まれ。大学卒業後就職、いくつかのアルバイトと旅を経て、88年アメリカインディアン・ホビ族の平和のメッセージと出会う。宮田雪(映画「ホビの予言」監督)とともに、ホビのメッセージを伝える「ランド・アンド・ライフ」の活動に関わる。03年3月のイラク戦争開戦を契機に、ホビ族のマーチン・ゲスリスウマにインタビューし、04年4月に「ホビの予言2004年版」を制作する。そして私たち自身が本来持っているはずの、地球人としてのスピリットに目覚め、精神的な生き方を育てていこう、とするランド・アンド・ライフの「ホビの種企画」として、映画上映を再開する。

山川 亜希子(やまかわ あきこ)

翻訳家。1943年東京都生まれ。65年東京大学経済学部を卒業。マッキンゼイ・アンド・カンパニー、マーブラン・ジャパンなどの勤務を経て、現在は翻訳のほか、講演会やセミナー活動も行っている。共訳書に『アウト・オン・ア・リム』、『聖なる予言』、『前世療法』、『マスターの教え』、『アルケミスト』など、多数。

比嘉 良丸(ひが よしまる)

沖縄市在住。自然信仰家・宮司・カミンチュ(神人:神の啓示で祈りを行う沖縄のシャーマン)。伝説的カミンチュである比嘉ハツさんの末っ子として、返還前の沖縄県コザ市に生まれる。10回の手術を伴う10年に及ぶ入院生活の後、神ダージ(神がかり)の状態となり、カミンチュとしての力が確立する。富士山のWPPD(世界平和と祈りの日)にて、4000人が手を繋いだ豪雨の輪の中で祝詞を捧げる。広島の実住民族会議においても、地球に点在する先住民族代表たちの中で祝詞を捧げる。現在、全国巡礼を行いながら、母君が60年前に啓示で探して来た琉球王朝時代の聖地を神社として守る一方、1000ヶ所所からなる沖縄の聖地を舞台に巡礼スタイルの気づきのワークを提供している。

<コーディネーター>

上村 雄彦(うえむら たけひこ)

千葉大学大学院公共研究センター COEフェロー。大阪大学大学院法学研究科博士前期課程、カールトン大学大学院国際関係研究科修士課程修了。カナダ国際教育局日加関係担当官、国連食糧農業機関住民参加・環境担当官、奈良大学教養部専任講師、ネットワーク『地球村』国際部長を経る。日本自立プロジェクト・コーディネーター、地球平和公共ネットワーク副代表、CSR経営研究所主任研究員、大東文化大学法学部非常勤講師。専門分野は地球社会論。共著として、『グローバル化の行方』(新世社)、『国際関係論を超えて』(山川出版社)、『新世紀における持続可能な発展の新しい挑戦』(CIER出版、英文)。

【第3部】対話と交流 ~ 来場者との対話 ~

この新しいテーマについて、熱い対話をみなさんで行いたいと思います。また、近年の新しい平和運動を展開されている方々に、普段はあまり語らないような、平和運動の思想的背景について簡単なスピーチをしていただきます。シンポジウムの最後は、山川亜希子氏に超宗派的な平和の祈り・瞑想を行なっていただき、和声ユニットが、「こころの誓い~第9条のうた」を歌います。

<ショートスピーチ>

小林 一朗(こばやし いちろう)

1969年東京生まれ。半導体製造・微生物による環境の浄化などの技術職を経た後、フリーのライターとして活動。みどりの会議の活動を引き継ぎ、日本に緑の党を誕生させる活動に従事。みどりのテーブル共同代表。共著に、『非戦』(幻冬舎)『戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法』(合同出版)『地球が危ない』(幻冬舎)ほかがある。

鬼丸 昌也(おにまる まさや)

NPOテラルネッサンス代表。日本小型武器行動ネットワーク運営委員。1979年福岡県生まれ。京都在住。高校在学中にアリアラト博士(スリランカの農村開発者)と出会い、「すべての人に未来を造りだす力がある」と教えらる。2001年、カンボジアを訪れて地雷被害の問題を知り、多くの人に伝えるため講演活動を始める。2005年よりウガンダ北部での元子ども兵の自立支援事業を始める。

きくち ゆみ

東京生まれ。マスコミ、米銀勤務を経て1990年より環境問題の解決をライフワークに。9.11を期に「グローバルピースキャンペーン」、米主要紙「平和の意見広告」、メールニュースの執筆をはじめ。マンガ『戦争中毒』、ドキュメンタリー映画『テロリストは誰?』'911 ボーイングを捜せ。

などを翻訳プロデュースし、話題に。東京平和映画祭のプロデューサーとしても活躍。4児の母。著作は、『地球と一緒に生きる』(八月所館)、『超自然派生活のすすめ』(大和出版)、『バタフライ』(八月所館)、『デニス・クシニッチ』(ナチュラルスピリット)、翻訳書に『戦争中毒』(合同出版)、『一本の樹が遺したもの』(現代思想新社)など。現在は、千葉県鴨川市の山間地で半自給生活をしている。

石橋 行受(いしばし ぎょうじゅ)

日本山妙法寺僧侶。1948年東京生まれ。日大在学中に全共闘運動に遭遇し、その後2年間海外での旅に過ごす。1975年日本山妙法寺山主藤井日達聖人との邂逅を持ち、翌年得度し僧侶となる。1978年アメリカにおいてネイティブアメリカンの祈りの大行進「The Longest Walk」、及び国連「第一回軍縮特別総会」の開催に合わせて渡米し、ニューヨーク市に留まって平和への御祈念を続ける。9.11事件から伝えられる「事実」を前にして、またその事件とも関連する今日のグローバリゼーションと言われる時代相の中にあって、日蓮聖人の教えである「立正安国」の御祈念のあり方を尋ね、今日に到る。

Benjamin Fulford(ベンジャミン フルフォード)

米経済誌「フォーブス」のアジア太平洋支局長を経て、現在フリージャーナリスト。日本語を含めて4か国語を操るクワトロリンガル。上智大学比較文学科を経て、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学卒業後、日本にてジャーナリスト活動に入る。1億総中流化を実現していたころの日本をこよなく愛す、下町大好き人間。日本人こそ世界をリードし世界を救済する使命をもった民族、国家破産の危機を乗り越え、日本国精神の再浮上をこれほど強く願う外人はいない。共著に『ぶっ壊します！ 泥簿国家日本と闇の権力構造』(徳間書店)。

< 歌 >

和水Kazumi(かずみ) & プレスコー

2005年1月シンガーソングライターとして活動開始した和水とジャンベ、ギターからなるユニット。現在、日本各地の聖地を巡礼しながら歌を奉納。心がほっとするような歌作りを目指している。

地球平和公共ネットワーク

「地球平和公共ネットワーク」(地平公=chiheiko)は、市民と研究者の連携の場として、公共哲学を基盤に、友愛・平和ネットワークの形成と新しい平和運動の創出、そして「もう一つの世界」の実現をめざしています。地平公は、環境・平和の諸問題や公共哲学等に関する研究と実践など、さまざまな活動を通して市民と研究者の連携を深め、平和で幸福な社会の実現を願っています。

平和への結集

日本の平和憲法、とりわけ戦争放棄をうたった9条を改定し戦争ができる普通の国にしようという動きに対し、平和憲法のすばらしさを守り活かしていくために広範な市民・政党の結集を呼びかけます。平和を志向する人々の分裂状況を克服し、右派的な2大政党の政治に反対して、平和統一候補などの実現をめざします。

平和公共哲学研究会

市民・研究者の双方が自由に交流できる対話の場として、時事的なテーマを取上げ、研究会を行っています。2004年から、すでに15回開催しました。対話的公共圏を創出し、「平和への結集」を加速していきたいと思えます。

公共民講座・友愛平和セミナー

「経済論」「平和論」「憲法と政治」など、第一線の研究者による公開講座です。詳細はWebサイトをご覧ください。

フィロソフィア

フィロソフィアは霊性(精神性)の問題を哲学的に考える場です。地球平和公共ネットワークのプロジェクトの一つとして、2005年4月から月1回のペースで開かれている哲学講義+ゼミです。フィロソフィアとは、語源的には「philo+sohia(愛+智)」を意味し、哲学的な智恵や人生における智恵の探究を行う愛智の会です。地球的平和を可能にするために、学問改革と新学芸(学問・文芸)復興を目指しています。フィロソフィアでは理性と霊性とを統合して示した哲学者の原点としてソクラテス プラトンを重視し、本年度は、プラトンの作品をゼミ形式で議論しながら、今日の哲学として関連する主題についての講義が行われます。

他、地平公が関係・連携する活動として、研究者を中心とした「公共哲学ネットワーク」、平和のポータルサイト「pepop」などがあります。

千葉大学 21世紀COEプログラム 公共研究センター

千葉大学21世紀COEプログラムは、持続可能な福祉社会(Sustainable Welfare Society)の実現を研究の中心テーマにすえた教育研究拠点を目指しています。人口減少・少子高齢・地球温暖化など、大きな構造変化に直面しつつある現在の経済社会は、税制・社会保障制度など社会の根幹となるシステムを持続可能なシステムに切り替えていく必要があります。(1)福祉政策と環境政策の統合 (2)哲学的・思想的研究と経験的・実証的研究の融合 (3)市民社会との直接的な対話・交流の3つを柱としながら、「公共哲学」、「公共政策」及び「国際公共比較」から構成される「公共研究」という新たな学問領域を創出し、成長を基調とする資源集約型の経済社会に代わるオルタナティブな社会モデルを提案していきます。